

2026 年 8 月 19 日

各位

アストモスエネルギー株式会社

グリーン LP ガスの原料多様化へ向けた
再生可能アルコールを原料とする
新規合成技術に関する共同開発契約 (JDA) の締結

アストモスエネルギー株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：佐藤利宣、以下「当社」）、古河電気工業株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長、CEO：森平英也、以下「古河電工」）、および SHV Energy N. V.（本社：オランダ・ホーフトドルプ、CEO：Patrick van der Voort、以下「SHV Energy」）の 3 社は、グリーン LP ガスの新規合成技術の開発に関して、共同開発契約（JDA、Joint Development Agreement）を締結しました。



1. 背景

当社、古河電工および SHV Energy の 3 社は、2023 年に締結した基本合意書（MOU、Memorandum of Understanding）に基づき、畜産由来のバイオガスを原料とするグリーン LP ガスの合成技術のラボ検証、プロセス設計と開発、および経済性分析を進めてきました。

※これまでの取り組みは「3. 参考」の各プレスリリースを参照ください。

2. 内容

この度、当社、古河電工、SHV Energy は、グリーン LP ガスの原料多様化を目指し、再生可能アルコールを原料とする新規グリーン LP ガス合成技術の開発を推進するため、共同開発契約（JDA）を締結しました。

エネルギー転換の実現においては、原料供給の地理的制約を受けにくく、大規模な生産が可能なソリューションの確立が求められ、グリーン LP ガスの普及を加速するためには、多様な製造ルートの確立が不可欠です。その観点において、再生可能アルコールは有望な原料の一つです。本共同開発では、古河電工がこれまで培ってきた触媒技術やプロセス開発力、当社および SHV Energy が持つ国際的な LP ガスの供給網や商業化に関する知見を組み合わせ、3 社の強みを活かして技術開発と事業化検討を推進します。

本取り組みでは、世界中で入手しやすい再生可能原料であるアルコールから、高純度な

プロパンを合成するという新たな製造ルートの確立に向け、新規技術のラボ検証やプロセス設計開発、経済性分析を実施し、実現可能性を検討していきます。

なお、本件は、これまでに３社で取り組んできた畜産由来のバイオガス（二酸化炭素およびメタン）を原料としたグリーン LP ガスの製造技術開発の取り組みを発展させるものであり、パートナーシップをさらに深化させるものです。

3. 参考（過去プレスリリース）

- ・ [海外でのグリーン LP ガス共同検討に関する基本合意書（MOU）延長について](#)
- ・ [海外でのグリーン LP ガス共同検討に関する基本合意書（MOU）締結について](#)

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

人事総務部 進藤 電話：050-3816-0700

e-mail: kuniaki.shinto@astomos.com URL: <https://www.astomos.jp/>